

I 研究主題の設定

1 教科「人間と社会」の概要

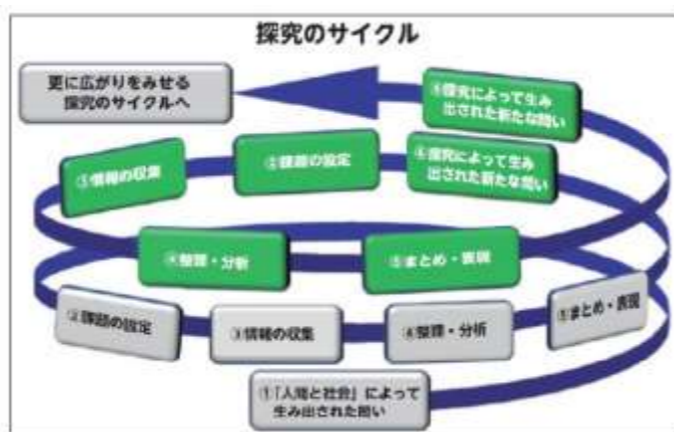
東京都独自の学校設定教科「人間と社会」は、平成28年に必修教科として設置された。「人間と社会」の特徴の一つは、体験活動や演習を取り入れ、道徳教育とキャリア教育の内容を一体的に学習することである。

人間の内面と、内面で考えた行動は連続する一続きのものであるように、人間の内面に関する道徳教育とその内面に基づく選択・行動に関するキャリア教育も、連続する一続きのものと考えられることから、それらを分けて学習するのではなく、一体的に学習する。

2 探究に至るプロセス

学習指導要領の改訂に伴い教科書を改訂し、令和3年度より「人間と社会」を通して身に付ける力として、「自ら課題を設定しその解決を図る探究に至るプロセス」を加えることとした。「人間と社会」はその趣旨として、広く道徳性を養うことや、体験活動を通して学んだことを生かして、主体的に選択し行動する力を育成すること、社会の変化にいち早く対応し、自ら課題を発見しその課題を解決するため、道徳教育とキャリア教育の内容を一体的に学習することとしていたが、さらにこれらに「探究に至るプロセス」を加え、学習することとした。

生徒が主体的に課題を発見し、情報を集め、更なる課題を発見するプロセスを繰り返すサイクルが「探究学習」であり、教科書の各章の学習を通して「探究」の基礎を体験することで、生徒は人生の中で出会う様々な課題を、「探究」のサイクルの中で解決していく力を身に付ける必要がある。



3 研究主題

本委員会では、教科書の各章の学習を通して「課題(リサーチ・クエスチョン)」を設定させる方法等を掲載した教員向けの指導資料が必要であると考え、

「『人間と社会』における探究的な学習の指導の在り方～改訂版指導資料(増補版)の開発～」

という研究主題を設定した。

II 指導資料(増補版)の開発に向けて

1 演習の充実に資する事例を紹介するページが必要

「人間と社会」は、講義ではなく、演習で進める。演習では教員は問いに対してあらかじめ用意された解答やそれにいたる唯一最善の解法もないことや、生徒が主体的に話し合い、協働しながら正解のない問題に対して解を求める活動を充実させるため、**演習の充実に資する事例を紹介するページ**を取り入れる。

2 「人間と社会」における一人1台端末の活用方法を紹介するページが必要

事前学習・体験活動・事後指導を円滑に行うためには、一人1台端末を活用し、学習内容の共有や課題について、Teams等を用いて記録することが有効であり、学習活動を充実させるため、**「人間と社会」における一人1台端末の活用方法を紹介するページ**を取り入れる。

3 「人間と社会」から探究への接続方法を紹介するページが必要

問いを生み出し、課題として設定することが探究の中で最も難しいプロセスであり、探究の課題(リサーチ・クエスチョン)に洗練させる事例を挙げ、学習活動を充実させるため、**「人間と社会」から探究への接続方法を紹介するページ**を取り入れる。



4 探究につながる体験活動の実践事例を紹介するページが必要

「人間と社会」の実施に当たっては、教科書を用いた演習と体験活動を通した学びの関連を図る必要があり、探究の充実に資する体験活動の事例を挙げて学習活動を充実させるため、**探究につながる体験活動の実践事例を紹介するページ**を取り入れる。

5 「『人間と社会』改訂版指導資料(増補版)」開発の方向性

- (1) 教科書全章の解説ページの見直し・充実
- (2) 次の1～4について、実践事例を踏まえて掲載

- 1 演習の充実に資する事例の紹介ページ
- 2 「人間と社会」における一人1台端末の活用方法についての紹介ページ
- 3 「人間と社会」から探究への接続方法の紹介ページ
- 4 探究につながる体験活動の実践事例の紹介ページ



Ⅲ 開発した指導資料(増補版)の概要

※全容については、令和5年3月に配布する「『人間と社会』改訂版指導資料(増補版)」を参照

1 演習の充実に資する事例の紹介ページ

(「第18章 国際平和を築く」の実践事例)

東京都立工芸高等学校(定時制課程)における実践事例

- 定時制課程における地理歴史科の既習事項を踏まえて、「第18章 国際平和を築く」を選択
- 1章当たり3時間の指導計画と実践事例を紹介



第1時
【導入】
①地理歴史の既習事項を振り返り、本章で考えることを提示

【展開】
①<Q1>「戦争・紛争はなぜ発生するのでしょうか。何が一番大きな原因だと思いますか。」について、既習事項をもとに戦争や紛争の原因について考え、意見をFormsに投稿

第1時の事例紹介

第2時
【展開】
②グループで各自の意見を説明し、異なる意見について意見交換

③他者の意見で大切だと思った意見を、理由を含めて記入

第2時の事例紹介

第3時
【導入】
入力内容を全体で共有し、本章で考えることを再確認

【展開】
①<ケーススタディ>「あなたは、議長として、どの様な案を提案し、合意形成を図りますか」の事例を読み、解決策について自分の考えを記入

②考えを用いて共有し、主な解決策をワークシート及びホワイトボードにまとめ、写真をFormsに投稿

第3時の事例紹介

2 「人間と社会」における一人1台端末の活用方法についての紹介ページ

東京都立瑞穂農芸高等学校(全日制課程)における実践事例

- 一人1台端末を活用することのメリット、レポートをまとめる方法等について紹介



- 演習を踏まえて、生徒が生み出した、今後の社会生活で解決(挑戦)していくべき課題や疑問について紹介

今後の社会生活で解決(挑戦)していくべき課題や、新たに気になった疑問を200字程度で記入
在来種が減ってきていたり外来種が増えてきたりしていることはよく聞かすが、実際に引き抜きなどはしたことがなかったので体験を通して大切さや今の状況がよく分かった。
取れた量も多かったんで、世界規模で考えると今から行動するべきだと思った。
数人の行動だけでは変わらないと思うので世界中の一人一人が関わっている共通の大問題だと思う。
このまま在来種が減り続けると、どのような問題が発生するのか考えていきたいと思う。

3 「人間と社会」から探究への接続方法の紹介ページ

東京都立晴海総合高等学校(全日制課程)における実践事例

- 1年次に「人間と社会」を実施し、2年次に取りこませる課題研究の基礎的なスキルが身に付くよう学習活動を展開
「人間と社会」の学習内容を踏まえて、テーマ設定のための協議の様子を紹介
- マンダラートの手法について例題を踏まえて学習する様子を紹介



マンダラートの手法の活用

①各々のマスの中央にキーワードを入れて、連想する語句や言葉をその周りのマスに書き出しましょう。書き出した各マスの言葉からさらに関連を探してみましょう。
②各々のマスを各セット毎に、同じように中央に言葉を入れて、思い浮かぶものを周りに書き出しましょう。

「Why(問題の原因を考えさせる)」と「How(問題の原因に対応した解決策を考えさせる)」を明確にしたマンダラートの手法の紹介

- マンダラートの手法を活用し、研究テーマについて、関連性や広がりについて考察する様子を紹介

<p>気温やエゾウシの発生が激しくなると、農産物の収穫量が減る。また、大規模な被害をもたらしている。</p>	<p>夏の暑さや冬の寒さで、農作業の効率が悪くなる。また、農作業の負担が増える。</p>	<p>エネルギーコストが高くなる。また、エネルギーの供給が不安定になる。</p>
<p>近頃よく見られる。農作業の負担が増える。</p>	<p>夜遅くまで起きている。農作業の負担が増える。</p>	<p>夜遅くまで起きている。農作業の負担が増える。</p>

身近な問題

<p>送電網が整備されていない。電力が不足する。</p>	<p>無駄遣いと浪費。電力が不足する。</p>	<p>急に節電はできない。電力が不足する。</p>
<p>使用時間帯が集中している。電力が不足する。</p>	<p>電力が不足する。電力が不足する。</p>	<p>電力が不足する。電力が不足する。</p>

社会的な問題①

<p>高齢者が多い。労働力が不足する。</p>	<p>若者が少ない。労働力が不足する。</p>	<p>外国人労働者の受け入れが難しい。労働力が不足する。</p>
<p>労働力が不足する。労働力が不足する。</p>	<p>労働力が不足する。労働力が不足する。</p>	<p>労働力が不足する。労働力が不足する。</p>

社会的な問題②

4 探究につながる体験活動の実践事例の紹介ページ

事例1 ※全部で6校の事例掲載

持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえた体験活動

東京都立豊多摩高等学校(全日制課程)における実践事例

- 学校のシンボルでもあるイチヨウ並木に関して、「イチヨウの落ち葉のたい肥化への挑戦」という課題を設定。情報を収集し、整理・分析を行い、考察を加えながら、たい肥化実現のための仮説を立てる取組を紹介



ギンナン集めや落ち葉回収、地域清掃の様子を紹介
集めたギンナンは、地域の方に無償で提供した様子を紹介

- 体験活動について、工夫した点や感染防止対策等について紹介

委員名簿

東京都立小石川中等教育学校	統括校長	鳥屋尾 史郎
東京都立砂川高等学校	副校長	延藤 修一
東京都立晴海総合高等学校	主幹教諭	豊浦 孝則
東京都立千早高等学校	主幹教諭	藤井 宏之
東京都立多摩科学技術高等学校	主幹教諭	西野 洋介
東京都立瑞穂農芸高等学校	主任教諭	星野 寛
東京都立工芸高等学校	教諭	中村 里津也

担当 教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 南濱 隆宏